

受入先	NPO 法人 穎娃おこそ会
役職	
隊員氏名	小野寺 宗貴
着任日	令和 5 年 7 月 1 日

活動月	令和 6 年 7 月（着任 1 年 1 カ月目）
主な活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 新聞社からの取材対応 2 他の路線で取り組む方々との意見交換 3 地域おこし協力隊員との意見交換

1. 南日本新聞社からの取材対応

南日本新聞社から地域おこし協力隊の活動取材したい、との依頼があり、仕事内容や今後の活動について取材を受けました。

当日は、長雨の影響で指宿駅～枕崎駅間の運転が再開したものの、本数を大幅に減らし、通学生が利用できるように運転するという変則的な形態となり、初めての対応と相まって緊張しましたが、ともに落ち着いて対応できました。

西穎娃駅で折り返し運転したため、鹿児島水産高校の生徒も「初めて降りた」という声が聞こえる中で、20 名ほどの生徒が利用していること、また、列車が運転したことによって保護者が学校まで送る必要性が減ることを考えると、年々利用者が減っているものの、大切な交通手段であると感じました。

別の日にも取材を受け、活動内容や今後の取組みについてお話をしました。駅社員が常駐する駅が減少していくなかで、西穎娃駅のように建物が残る駅の活用を行う動きが出つつあります。様々なアイデアで活用していることが分かり、どれが地域にとって最適かを考えながら進めてまいります。



2. 他の路線で取り組む方々との意見交換

指宿枕崎線と同じような課題を抱える肥薩線や吉都線で、鉄道を利用した地域活性化に取り組んでいる方々が集まり、意見交換会を行いました。

地域の方々や旅行者に対して、どのように鉄道を利用していただき、地域の活性化につなげるか。をテーマに、それぞれの路線が抱える悩みや取り組みを話しました。

今ある課題や、現在行っている取組みを終えた後の活用については、持続可能な地域を作るために必要であると再認識しました。

100年以上の歴史がある路線でも同様の悩みがあり、取り組んでいる内容に活用できそうなものは展開していきたいと感じました。

西穎娃駅の活用方法について発表し、参加した方からは、面白そうだ、取り組んでほしい、との励ましの言葉のほか、自分たちの路線での取り組みや高校生が列車待ちの時間にどのようなことをしているかを聞くことができ、新たな視点を持つことができました。

駅を中心とした賑わいを作る。まちの玄関口を変化させることで人の流れを作り出したい、そして作っていけると信じて取り組んで参ります。

3. 地域おこし協力隊員との意見交換

11月に穎娃町で開催されるゴッソイ祭り。地域おこし協力隊員の取り組みを知っていただくために出店を予定していますが、どのような出店形態にするか地域おこし協力隊員の方と意見交換しました。

初の取り組みとなるため、地域の方々に喜んでいただきつつ、活動をお伝えするにはどうすればよいかアイデアを出し合いました。できるところは協力して行う、連携して取り組めることの良さをお互いに実感しています。

また、西穎娃駅改良についても話し合いました。工事に際して必要なことや、どこを変えると良いかを教えていただいたためです。多くの視点から見て進めることで見えてこなかったことが見えつつあります。

